

平成 27 年 度

北海道立総合研究機構  
道南農業試験場年報

平成 29 年 2 月

地方独立行政法人  
北海道立総合研究機構  
農業研究本部 道南農業試験場

(北斗市本町680番地)

#### 資料の取り扱い

本資料掲載の研究成績等については未公開のものであるため、複製、転載及び

引用に当たっては、必ず原著者の了承を得た上で利用して下さい。



平成 27 年 度

## 北海道立総合研究機構 道南農業試験場年報

### 目 次

I 概 要	1
1. 沿 革	1
2. 位置及び土壌	1
3. 面積及び利用区分	2
4. 機 構	2
5. 職員の配置	3
6. 職 員	3
7. 歳入決算額	4
8. 歳出決算額	4
9. 建 物	5
10. 新たに購入した備品	5
II 作 況	6
1. 気象概況	6
2. 当該作況	9
III 試験研究及び地域支援活動	11
1. 試験研究・地域支援の概要	11
(1)生産環境グループ(栽培環境)	11
(2)生産環境グループ(病虫)	11
(3)地域技術グループ(作物)	11
(4)地域技術グループ(地域支援)	11
2. 試験研究・地域支援の内容	13
(1)生産環境グループ(栽培環境)	13
(2)生産環境グループ(病虫)	14
(3)地域技術グループ(作物)	14
(4)地域技術グループ(地域支援)	16
3. 道南地域農業技術支援会議の活動	16
4. 平成27年度普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項	17
5. 論文ならびに資料	18
(1)研究論文	18
(2)口頭発表	19
(3)専門雑誌、著書・資料	20
(4)新聞記事	20
6. 印刷刊行物	21
7. 技術指導・技術相談	21

IV	その他の活動	22
1.	職員研修	22
2.	研修生の受け入れ	22
3.	参観	23
4.	主催事業等	23
5.	マスコミ対応	25
6.	委員会活動	26
7.	場内研修	27
8.	表彰・資格	27
9.	外部委員会等への参加	27
V	自己点検	29
1.	平成27年度計画に係る項目別実績の自己点検結果	29
	付表1. 作物標準栽培法の概要	32
	付表2. 土壌の理化学的特性	33

# I 概 要

## 1. 沿革

### (1) 戦前

道南農業試験場は、明治42年、亀田郡大野村（現在の北斗市）に北海道庁立渡島農事試験場（総面積9.85haの内、畑0.46ha、水田0.40ha）として開設された。翌43年には北海道拓殖計画に基づく農業試験機関の統合により国に移管され、北海道農事試験場渡島支場と改称、水稻、麦類及び豆類などの試験に着手した。

明治44年には果樹（りんご、なし類、おうとう、ぶどう及びもも）の栽培を開始した。さらに、大正7年からは水稻品種改良に純系分離育種法を取り入れるなど、道南地方の自然条件に適合する稲作、畑作及び園芸の試験研究を推し進めた。その間、水稻、大豆などで多くの優良品種を育成するとともに農業経営方式の確立に努め、地域農業の発展に貢献した。昭和17年には北海道農業試験場渡島支場と改称した。

### (2) 戦後

昭和25年、全国農業試験研究機関の整備統合により従来の機関は国立、道立に二分され、当時は道費支弁の北海道立農業試験場渡島支場となった。昭和28年、大野町字向野に用地3haを買収して果樹園を移設し、さらに昭和36年からは庁舎、調査室及び作業室等施設の整備拡充計画を推進した。

昭和39年、道立農業試験場の機構改革により北海道立道南農業試験場と改称した。昭和46年には、施設園芸の近代的推進の中核的役割を果たす農業者及び技術指導者などを養成する目的で施設園芸の研修施設としては道内最大のプラスチックハウス（約0.1ha）を設置した。さらに昭和56、57年にはコンピューター制御による環境制御温室と地温制御温室の完成を見ている。昭和62年には全国的な「農業試験研究情報システム」整備の一環として情報処理室を設置し、道立農業試験場各場間を結ぶ情報ネットワーク（HARIS）が整備された。その結果、各種農業情報や研究情報などの有効利用が促進されることとなった。

平成元年、完全自動化された花き省エネ栽培温室を設置し、同3年には植物馴化装置（3連グロースキャビネット）を導入し、翌年には米の食味分析計を整備した。なお、果樹試験は、研究基本計画に基づく機構改正により平成4年3月31日をもって道立中央農業試験場に統合された。

平成6年、前年の大冷害の経験から冷水田の整備が行われ、水稻品種の耐冷性強化のための新たな施設が完成した。平成7年には、庁舎の増改築が行われ高精度実験室や50人規模の会議室が新設されたほか、専技室に技術相談室が整備された。

平成12年、水稻優良品種開発施設として稲の世代促進を目的とした年3期作が可能な水田温室と管理棟が完成し、13年から本格的な品種開発試験を開始した。

また、平成12年の研究科の再編統合に伴い、機動的な研究体制とするために、園芸科と土壤肥料科が統合され、「園芸環境科」が誕生した。さらに、専門技術員室は専技と研究職の次長からなる、研究成果の実証・体系化を行う「技術普及部」に改組され、研究部（園芸環境科、病虫科、作物科、管理科）とあわせて2部体制が敷かれた。

その後、本道農業を巡る情勢の変化に伴い平成18年より道南圏（渡島、檜山）における園芸を主とした地域対応研究に特化した場と位置づけられ、水稻、いちごの育種担当場から品種開発支援場となった。同時に組織の再編も行われ、研究部は、作物、栽培環境、病虫および管理科の4科となった。一方、技術普及部には部長以下、次長、主任普及指導員（旧主任専技）、地域支援の主査が配置された。

平成22年4月、道立試験研究機関の地方独立行政法人化に伴い、これまでの北海道立道南農業試験場は、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部道南農業試験場に改組された。研究部は地域技術、生産環境グループの2グループ制となり、2研究主幹ならびに主査（作物）、主査（栽培環境）、主査（病虫）および主査（地域支援）が配置された。普及指導員は、北海道農政部生産振興局技術普及課の道南農試在勤技術普及室として配置されることになり、上席普及指導員、主任普及指導員および主査（地域支援）の3名体制となった。旧技術普及部の普及センター等関係機関に対する地域支援業務は、技術普及室の3普及指導員および地域技術グループ研究主幹、主査（地域支援）により対応することとなった。

## 2. 位置及び土壌

当場（北斗市本町680番地）は、北緯41°53′、東経140°39′、海拔25mに位置し、JR函館本線新函館

北斗駅から南に3km、函館市の北約20kmのところにある。地形は平坦で、土壌は褐色低地土（河成沖積）に分類される。水田土壌は腐植を含む埴壤土（減水深30～40mm/日）である。40～50cm以下は砂礫層となっている。作土の粘着性、可塑性がやや強く、硬度（ち密度）は約18mm、鋤床層で約22mmである。斑鉄は作土でやや少なく、鋤床層でやや多い。マンガン斑は作土、鋤床層ともに観察されない。なお、作土深は12cm余、鋤床

層は8～15cmでやや厚い。

一方、畑地では表層に腐植を含む壤土が分布しており、次層は壤土～砂壤土、50～70cm以下は礫にすこぶる富む砂壤土～礫層となっている。構造は不鮮明であるが、孔隙がやや発達し、保水性は中庸で、粘着性、可塑性がやや強い。全般に膨軟で礫層の深い所まで根が分布している。

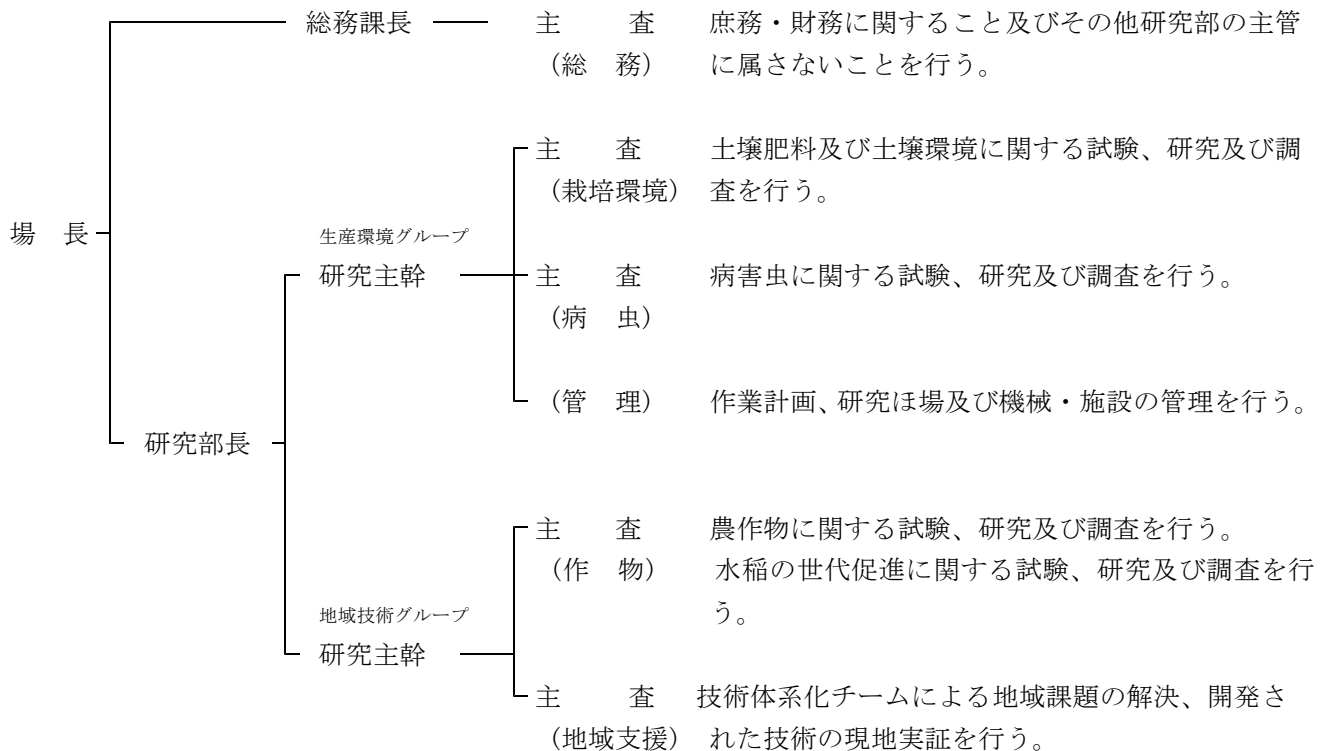
### 3. 面積及び利用区分

総面積		127,202 m <sup>2</sup>	
区 分	面 積	区 分	面 積
構 内 建 物 用 地	20,372m <sup>2</sup>	試 験 ほ 場 （ 畑 ）	37,290m <sup>2</sup>
道 路	10,530	〃 （ 緑 地 管 理 ）	24,715
防 風 林	2,170	そ の 他	17,125
試 験 ほ 場 （ 田 ）	15,000	計	127,202

※借地も含む。

### 4. 機 構

（平成28年3月31日現在）



(参考)

技術普及室（北海道農政部技術普及課、道南農試に常駐）

上席普及指導員 — 主任普及指導員 — 主査（地域支援）

## 5. 職員の配置

(平成28年3月31日現在)

	場 長	研究 部長	研究 主幹	総務課		裁 培 環 境	病 虫	管 理	作 物	地 域 支 援	計
				課 長	総 務						
研 究 職	1	1	2			2	3		4	1	14
行 政 職				1	3						4
研究支援職								3			3
計	1	1	2	1	3	2	3	3	4	1	21

## 6. 職 員

### (1) 現在員

(平成28年3月31日現在)

職 名	氏 名	職 名	氏 名
場 長	田 中 文 夫	研究主幹	中 住 晴 彦
研究部長	丹 野 久	主査(作物)	宗 形 信 也
研究主幹	日 笠 裕 治	研究主任	植 野 玲 一 郎
主査(病虫)	美 濃 健 一	〃	田 澤 暁 子
研究主任	青 木 元 彦	〃	高 濱 雅 幹
研究主任	三 澤 知 央	主査(地域支援)	林 哲 央
主査(栽培環境)	奥 村 理	総務課長	小 滝 宏 樹
研究主査	上 野 達	主査(総務)	渋 谷 美 香 子
指導主任	田 村 正 貴	主 任	石 黒 一 幸
主 任	佐々木 盛 久	主 任	中 村 圭 志
主 任	竹 内 達 哉	計	21名

### (2) 転入者及び新規採用者

職 名	氏 名	発令月日	摘 要	職 名	氏 名	発令月日	摘 要
研究部長	丹野 久	27.4.1	上川農試から	総務課長	小滝宏樹	27.4.1	北海道農政部から
研究主幹	日笠裕治	27.4.1	中央農試から				
研究主任	青木元彦	27.4.1	上川農試から				

### (3) 転出者及び退職者

職 名	氏 名	発令月日	摘 要	職 名	氏 名	発令月日	摘 要
研究部長	安積大治	27.4.1	花・野菜技術センターへ	研究主任	細淵幸雄	27.4.1	中央農試へ
研究主幹	大久保利道	27.3.31	退職	総務課長	近藤範昭	27.3.31	退職



## 7. 歳入決算額

(単位：円)

予 算 科 目	決 算 額	備 考
依頼試験手数料等	196,430	
農産物売払収入	939,160	
法人財産使用料等	265,472	
国庫受託研究収入	4,053,000	
道受託研究収入	1,831,920	
その他受託研究収入	9,393,000	
施設整備費補助金収入	1,998,000	
合 計	18,676,982	

## 8. 歳出決算額

(単位：円)

予 算 科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
業 務 費			
重点研究費	4,500,000	4,262,962	
経常研究費	12,901,000	12,245,428	
技術普及指導費	418,430	334,987	
研究用備品整備費	1,672,488	1,672,488	
維持管理経費(研究)	745,000	737,834	
一 般 管 理 費			
維持管理経費	41,018,000	35,770,466	
運営経費	3,405,000	1,571,359	
受託研究等経費			
国庫受託研究費	3,729,000	3,729,000	
道受託研究費	1,832,000	1,832,000	
その他受託研究費	8,857,000	8,857,000	
補 助 金			
施設整備費補助金	1,998,000	1,998,000	
繰越積立金			
施設整備費(繰越積立金)	3,651,000	3,650,400	
重点研究費(繰越積立金)	21,507	17,787	
合 計	84,748,425	76,679,711	

※事業費支弁人件費振替額を除く

## 9. 建 物

### (1) 公用財産

	本 町			向 野		
	棟数	面積(m <sup>2</sup> )	建築年次	棟数	面積(m <sup>2</sup> )	建築年次
庁 舎	1	969.12	S36			
記念館	1	132.23	T 8			
1号温室	1	165.43	S40			
2号温室	1	149.04	S43			
ポンプ室	1	6.48	S44			
調査室	1	165.25	S44			
物品庫	1	66.11	S45			
燃料費	1	8.30	S45			
ポンプ小屋	1	9.88	S45			
便所	1	9.72	S26			
ガス格納庫	1	4.95	S49			
環境制御温室	1	534.15	S56			
総合倉庫	1	133.85	S58			
管理科兼土壌実験室	1	197.35	S59			
車庫	1	100.75	S60			
果樹品質調査室				1	66.42	S63
花き省エネ栽培温室	1	655.92	H 1			
農機具格納庫	1	350.00	H 2			
作業室	1	145.74	H 3			
昆虫飼育実験室	1	106.92	H 4			
土壌病害虫総合実験温室	1	275.04	H 5			
便所	1	6.62	H 5			
揚水舎	1	3.31	H 7			
ポンプ室				1	2.25	S42
農業資材倉庫	1	243.00	H 9			
水田温室	1	2,340.00	H10			
運搬車用車庫	1	86.49	H15			
計	25	6,865.65		2	68.67	

## 10. 新たに設置した主要施設及び備品

(単価50万円以上、単位：円)

品 名	規 格	数 量	金 額	備 考
運搬車	筑水キャニコムライガーELL802	1	1,008,720	

## Ⅱ 作 況

### 1. 気象概況

平年に比べ根雪初日は17日遅く、根雪終日は15日遅く、根雪期間は平年より2日短かった。耕鋤始は平年より11日早く、晩霜は平年より7日遅かった。

4月： 平均気温は1.3℃、最高気温は1.6℃、最低気温は0.4℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より58.2mm多く、平年の183%であった。日照時間は35.8時間多く、同120%であった。

5月： 平均気温は1.4℃、最高気温は1.9℃、最低気温は0.8℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より15.8mm少なく、平年の81%であった。日照時間は58.2時間多く、同131%であった。

6月： 平均気温は0.8℃、最高気温は0.7℃、最低気温は0.7℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より14.5mm多く、平年の120%であった。日照時間は4.0時間多く、同102%であった。

7月： 平均気温は1.4℃、最高気温は1.6℃、最低気温は1.0℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より50.6mm少なく、平年の63%であった。日照時間は48.3時間多く、同140%であった。

8月： 平均気温は0.5℃、最高気温は1.3℃、最低気温は1.0℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より105.7mm少なく、平年の35%であった。日照時間は20.5時間少なく、同85%であった。

9月：平均気は平年並、最高気温は0.1℃、最低気温は0.2℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平

年より7.4mm多く、平年の105%であった。日照時間は4.4時間少なく、同97%であった。

10月： 平均気温は1.1℃、最高気温は0.1℃、最低気温は1.3℃平年に比べそれぞれ低かった。降水量は平年より33.7mm少なく、平年の69%であった。日照時間は18.0時間多く、同112%であった。

本年の初霜は10月15日で平年より9日早く、初雪は11月20日時点で未観測である。

以上、農耕期間の気象についてまとめると、気温は、4月中旬～6月中旬、7月中旬～8月中旬は高温傾向が続き、特に4月下旬と7月下旬は平均気温で平年より2.8℃高かった。8月下旬以降は低温傾向に転じた。

降水量は全体に少なく、10日以上全く降雨が見られない時期が3回あった（5月下旬、6月下旬、7月上旬）。また、5月14日から6月26日までの44日間は、10mm以上の降雨がなかった。一方、6月27～28日に62.5mm、8月18日に50mm、9月2日に46mmの降雨を記録するなど、短期間に集中した降雨が多かった。

日照時間は全体に平年より多く、特に7月上旬は平年の233%と多かった。6月下旬、7月下旬、8月下旬～9月上旬は平年の6割前後と少なかった。

5月から9月の積算では、平年に比べ平均気温では126℃高く平年の105%、降水量は150mm少なく同75%、日照時間は90時間多く同111%であった。

季節調査(年.月.日)

区別	根雪初日	根雪終日	降雪終日	耕鋤始	晩 霜	初 霜	降雪初日
本年	H26.12.2	H27.2.28	H27.4.7	H27.3.30	H27.5.8	H27.10.15	H27.11.23
平年	12.19	3.15	4.11	4.10	5.1	10.24	11.8
比較	▲17	▲15	▲4	▲11	7	▲9	380

注1) 函館海洋気象台(函館市美原)の観測値を使用した。平年値は前10か年の観測値を使用して道南農試で作成。

注2) 耕鋤はじめは農試データ。

注3) 表中▲は「早」を示す。

農耕期間積算値(5～9月)

区別	平均気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)
本年	2723	458	843
平年	2597	608	757
比較	126	-150	86

注) 本年値は北斗市のアメダスデータを使用し農試で作成。平年値は前10か年の北斗市のアメダスデータを使用し農試で作成。

気象表（平成27年）

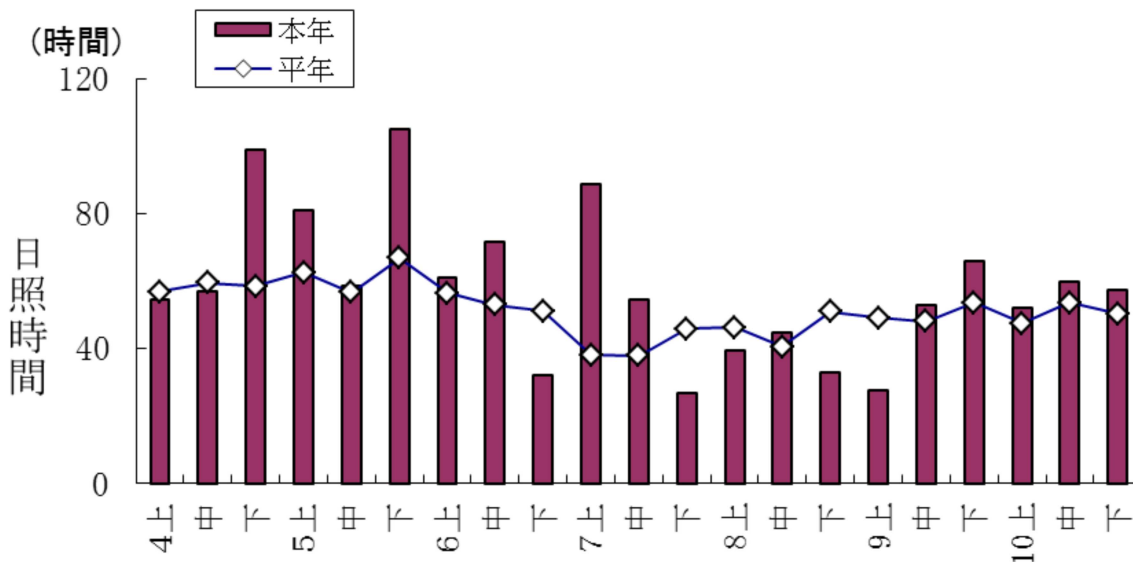
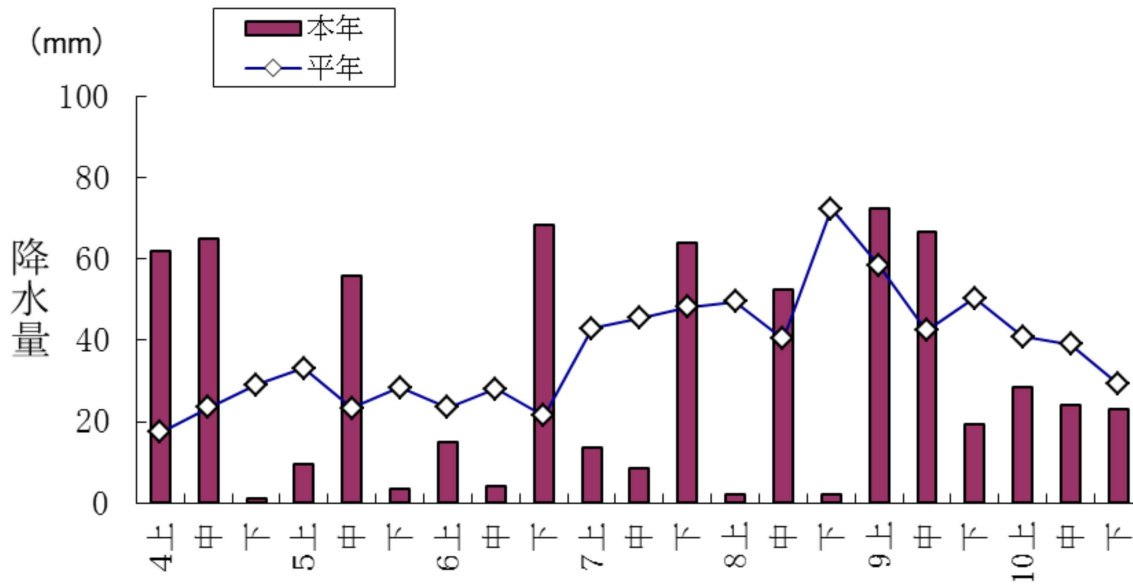
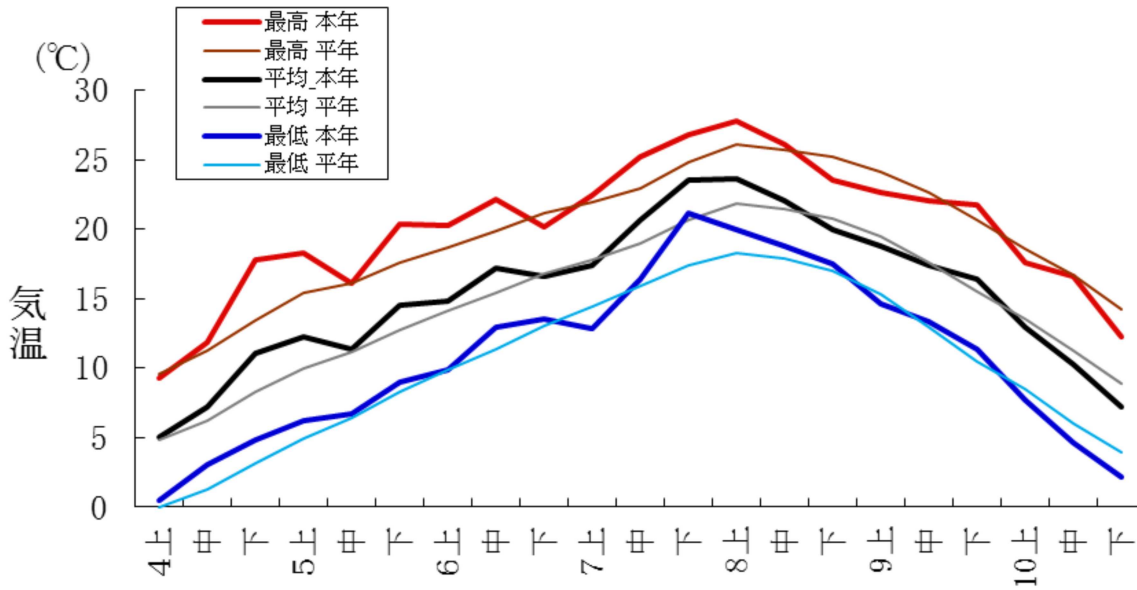
月旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4上	5.0	4.8	0.2	9.3	9.6	▲ 0.3	0.5	0.0	0.5	62.0	17.4	44.6	54.7	56.8	▲ 2.1
中	7.2	6.2	1.0	11.9	11.3	0.6	3.1	1.3	1.8	65.0	23.4	41.6	56.8	59.5	▲ 2.7
下	11.1	8.3	2.8	17.8	13.4	4.4	4.8	3.2	1.6	1.0	29.0	▲ 28.0	99.0	58.4	40.6
5上	12.2	10.0	2.2	18.3	15.4	2.9	6.2	4.9	1.3	9.5	33.1	▲ 23.6	81.1	62.5	18.6
中	11.4	11.2	0.2	16.1	16.1	0.0	6.7	6.4	0.3	56.0	23.3	32.7	58.4	56.7	1.7
下	14.5	12.7	1.8	20.4	17.6	2.8	9.0	8.3	0.7	3.5	28.4	▲ 24.9	104.8	66.9	37.9
6上	14.8	14.1	0.7	20.3	18.7	1.6	9.9	9.9	0.0	15.0	23.5	▲ 8.5	60.9	56.5	4.4
中	17.2	15.4	1.8	22.1	19.9	2.2	12.9	11.4	1.5	4.0	28.1	▲ 24.1	71.5	52.9	18.6
下	16.6	16.8	▲ 0.2	20.2	21.1	▲ 0.9	13.5	13.0	0.5	68.5	21.4	47.1	32.1	51.1	▲ 19.0
7上	17.4	17.8	▲ 0.4	22.4	21.9	0.5	12.8	14.4	▲ 1.6	13.5	42.9	▲ 29.4	88.6	38.1	50.5
中	20.7	19.0	1.7	25.2	22.9	2.3	16.4	15.9	0.5	8.5	45.5	▲ 37.0	54.6	38.0	16.6
下	23.5	20.7	2.8	26.8	24.8	2.0	21.1	17.4	3.7	64.0	48.2	15.8	27.0	45.8	▲ 18.8
8上	23.6	21.8	1.8	27.8	26.1	1.7	20.0	18.3	1.7	2.0	49.5	▲ 47.5	39.5	46.2	▲ 6.7
中	22.0	21.4	0.6	26.1	25.7	0.4	18.8	17.9	0.9	52.5	40.3	12.2	44.6	40.6	4.0
下	20.0	20.8	▲ 0.8	23.5	25.2	▲ 1.7	17.5	17.0	0.5	2.0	72.4	▲ 70.4	33.1	50.9	▲ 17.8
9上	18.8	19.5	▲ 0.7	22.6	24.1	▲ 1.5	14.6	15.3	▲ 0.7	72.5	58.3	14.2	27.8	49.1	▲ 21.3
中	17.4	17.6	▲ 0.2	22.0	22.6	▲ 0.6	13.3	12.9	0.4	66.5	42.4	24.1	52.7	48.0	4.7
下	16.4	15.5	0.9	21.7	20.7	1.0	11.4	10.5	0.9	19.5	50.4	▲ 30.9	65.8	53.6	12.2
10上	12.9	13.5	▲ 0.6	17.6	18.6	▲ 1.0	7.7	8.5	▲ 0.8	28.5	40.9	▲ 12.4	51.9	47.5	4.4
中	10.3	11.3	▲ 1.0	16.6	16.7	▲ 0.1	4.6	6.0	▲ 1.4	24.0	39.0	▲ 15.0	59.9	53.5	6.4
下	7.2	8.9	▲ 1.7	12.2	14.2	▲ 2.0	2.2	3.9	▲ 1.7	23.0	29.3	▲ 6.3	57.5	50.3	7.2

月	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4月	7.8	6.4	1.3	13.0	11.4	1.6	2.8	1.5	0.4	128.0	69.8	58.2	210.5	174.7	35.8
5月	12.8	11.3	1.4	18.3	16.4	1.9	7.4	6.6	0.8	69.0	84.8	▲ 15.8	244.3	186.1	58.2
6月	16.2	15.4	0.8	20.9	19.9	0.7	12.1	11.4	0.7	87.5	73.0	14.5	164.5	160.5	4.0
7月	20.6	19.2	1.4	24.9	23.3	1.6	16.9	15.9	1.0	86.0	136.6	▲ 50.6	170.2	121.9	48.3
8月	21.8	21.3	0.5	25.7	25.7	1.3	18.7	17.7	1.0	56.5	162.2	▲ 105.7	117.2	137.7	▲ 20.5
9月	17.5	17.5	0.0	22.1	22.5	0.1	13.1	12.9	0.2	158.5	151.1	7.4	146.3	150.7	▲ 4.4
10月	10.0	11.2	▲ 1.1	15.4	16.4	▲ 0.1	4.7	6.1	▲ 1.3	75.5	109.2	▲ 33.7	169.3	151.3	18.0

注1)観測値は北斗市のアメダスデータを使用、平年値は前10か年による。  
注2)「平均または合計」欄では、気温は平均を、降水量、日照時間は合計を道南農試で作成。  
注3)表中▲印は「低」または「少」を示す。

気象図（平成27年）



## 2. 当场作況

水 稲 平年並

播種は平年より2日遅い4月21日に行った。出芽期は平年より1日遅く、出芽まで日数は平年より1日短かった。出芽後は高温多照傾向で、移植時の苗の品質は、草丈は平年より短いものの、茎数、葉数、乾物重はともに平年を上回った。

移植は平年より1日早い5月20日に行った。移植後は風が強い日が多かったが高温多照に経過したため、活着と初期生育は概ね順調であった。6月下旬の低温寡照傾向により、幼穂形成期は平年より5日遅れ、平年と比べて止葉期は3～4日、出穂期は3日遅かった。草丈は、本田初期から常に平年より短かった。茎数は生育期を通じて概ね平年並から多く推移した。主稈葉数は、常に平年を上回り、止葉葉数は平年より多かった。冷害危険期にあたる7月中旬に、最低気温が15℃以下となった日が3日あった。出穂期前後は高

温傾向で、出穂と開花は順調だった。8月中旬以降は気温が平年みから低温傾向に転じたため、登熟は緩やかであった。8月下旬以降、集中的な降雨により倒伏が発生し、品種によっては甚発生となった。成熟期はほぼ平年並となり、登熟日数は平年より2日短かった。

成熟期の稈長は平年並、穂長はやや短かった。平年と比較して、穂数は11～14%多く、一穂粒数は3～9%少なく、㎡当粒数は多かった。稈実歩合はほぼ平年並であったため、稈実粒数は多かったが、登熟歩合が低かったため、登熟粒数は平年並となった。

精玄米千粒重は平年をやや下回り、屑米重は重く、収量(粒厚1.90mm以上の精玄米重)は「きらら397」では平年比101%の57.0kg/a、「ふっくりんこ」では平年比100%の55.8kg/aであった。

なお、検査等級は青未熟粒でやや等級を落としたものの、平年よりやや優った。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

生育及び収量調査成績

項 目	きらら397			ふっくりんこ			ななつぼし			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播 種 期 (月日)	4.21	4.19	2	4.21	4.19	2	4.21	(4.19)	2	
出 芽 期 (月日)	4.26	4.25	1	4.26	4.25	1	4.26	(4.26)	0	
移 植 期 (月日)	5.20	5.21	▲ 1	5.20	5.21	▲ 1	5.20	(5.21)	▲ 1	
幼 穂 形 成 期 (月日)	7.04	6.29	5	7.07	7.02	5	7.01	(6.27)	4	
止 葉 期 (月日)	7.18	7.14	4	7.20	7.17	3	7.17	(7.11)	6	
出 穂 期 (月日)	7.28	7.25	3	7.30	7.27	3	7.29	(7.22)	7	
成 熟 期 (月日)	9.11	9.10	1	9.13	9.12	1	9.13	(9.06)	7	
穂 揃 日 数 (日)	6	4.0	2.0	6	5.0	1.0	6	(5.0)	1.0	
登 熟 日 数 (日)	45	47	▲ 2.0	45	47	▲ 2.0	46	(46.0)	0.0	
生 育 日 数 (日)	143	144	▲ 1.0	145	146	▲ 1.0	145	(140)	5.0	
移 植 時 乾 物 重 (g/100本)	2.8	2.61	0.19	3.02	2.67	0.35	3.04	(2.39)	0.65	
草丈(cm)	移植時	9.1	13.8	▲ 4.7	10.1	13.4	▲ 3.3	10.9	(12.8)	▲ 1.9
	6月20日	28.6	30.3	▲ 1.7	31.0	30.8	0.2	32.7	(34.5)	▲ 1.8
	7月20日	61.2	71	▲ 9.8	67.9	74.5	▲ 6.6	70.9	(81.3)	▲ 10.4
茎数(本/m <sup>2</sup> )	移植時	114	79	35	123	81	42	130	(77)	53
	6月20日	575	569	6	565	568	▲ 3	548	(567)	▲ 19
	7月20日	882	781	101	916	762	154	859	(694)	165
葉数(枚)	移植時	3.7	3.4	0.3	3.7	3.2	0.5	3.8	(3.2)	0.6
	6月20日	8.4	7.8	0.6	8.1	7.4	0.7	8.1	(7.8)	0.3
	7月20日	12.0	11.0	1.0	11.3	10.6	0.7	11.2	(10.6)	0.6
止 葉 葉 数 (枚)		12.0	11.1	0.9	11.4	10.8	0.6	11.2	(10.7)	0.5
成熟期	稈長 (cm)	69.2	68.1	1.1	77.2	75.5	1.7	78.8	(75.9)	2.9
	穂長 (cm)	16.0	16.5	▲ 0.5	16.0	16.7	▲ 0.7	16.0	(16.4)	▲ 0.4
	穂数 (本)	769	677	92	720	648	72	715	(636)	79
一 穂 粃 数		43.7	48.0	▲ 4.3	47.7	49.3	▲ 1.6	52.7	(50.7)	2.0
m <sup>2</sup> 当 粃 数 (×1000)		34.7	32.5	2.2	36.7	32.7	4.0	36.9	(33.4)	3.5
稔 実 粃 数 (×1000)		31.9	30.6	1.3	34.7	30.2	4.5	34.7	(31.5)	3.2
登 熟 粃 数 (×1000)		25.6	25.8	▲ 0.2	26.6	26.0	0.6	28.9	(28.0)	0.9
不 稔 歩 合 (%)		8.2	5.8	2.4	5.5	7.4	▲ 1.9	5.9	(5.7)	0.2
稔 実 歩 合 (%)		91.8	94.2	▲ 2.4	94.5	92.6	1.9	94.1	(94.3)	▲ 0.2
登 熟 歩 合 (%)		73.6	79.9	▲ 6.3	72.4	80.4	▲ 8.0	78.4	(84.1)	▲ 5.7
粃 摺 歩 合 (%)		80.1	79.1	1.0	80.5	77.7	2.8	82.0	(81.5)	0.5
屑 米 重 (kg/a)		4.8	2.9	1.9	6.0	4.4	1.6	4.3	(1.9)	2.4
屑 米 歩 合 (%)		7.4	4.8	2.6	9.3	7.3	2.0	6.3	(3.1)	3.2
立 重 (g)		801	826	▲ 25	809	832	▲ 23	804	(833)	—
千 粒 重 (g)		22.2	23.0	▲ 0.8	22.5	23.2	▲ 0.7	20.8	(22.0)	▲ 1.2
わ ら 重 (kg/a)		63.7	61.5	2.2	65.6	69.3	▲ 3.7	68.3	(68.2)	0.1
精 粃 重 (kg/a)		76.4	72.7	3.7	76.2	73.7	2.5	79.4	(71.7)	7.7
精 玄 米 重 (kg/a)		57.0	56.4	0.6	55.8	56.0	▲ 0.2	61.6	(57.5)	4.1
収 量 平 年 比 (%)		101	100	—	100	100	—	107	(100)	—
玄 米 検 査 等 級		1中下	2中上	—	2上	2中上	—	2上	(2上)	—

注1)平年値は、前7か年中、平成24年(最豊年)、同21年(最凶年)を除く5か年の平均値を用いた。

但し、「ななつぼし」は前6か年中、同2か年を除く4か年の平均を用いた。

注2)苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m<sup>2</sup>(33cm×12cm)、1株3本植え。

注3)本田にはN、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、K<sub>2</sub>O成分をそれぞれ0.8、0.97、0.69(kg/a)施用した。

注4)篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5)登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

### Ⅲ 試験研究及び地域支援活動

#### 1. 試験研究・地域支援の概要

##### (1) 生産環境グループ（栽培環境）

経常研究では、地域技術グループと共同で「マルハナバチおよびホルモン処理が不要な単為結果性トマトの栽培技術開発」を実施し、当グループは摘果及びかん水について検討した。また、環境保全型有機質資源施用基準の設定調査(土壌機能実態モニタリング調査)において、生産者圃場5地区20地点の土壌調査等を実施した。

経常(各部)研究では「施設野菜の輪作体系における施肥対応技術の開発」において、葉菜類栽培後のトマト施肥量について検討した。また、「トンネル早熟・露地マルチスイートコーンの化学肥料高度削減技術の開発」及び「ハウス栽培におけるほうれんそうの高度クリーン栽培技術の開発」では、それぞれの作物について化学肥料窒素5割削減のリスク評価を行うとともに、5割削減に伴う代替技術を検討した。「リン酸肥料のセル成型苗施肥によるブロッコリーの本圃減肥技術の確立」では、ブロッコリーのセル成型苗にリン酸を増肥することによる本圃の施肥量削減技術を検討した。

道受託研究では、「農業農村整備事業等に係る土壌調査」において所定の土壌調査等を実施し報告した。

公募型研究では「カドミウム高吸収ソルガム新品種を用いた野菜畑土壌浄化技術の開発」に参画し、ソルガムによるカドミウムのファイトレメディエーション技術開発に取り組んだ。また、「農地管理実態調査」において、生産者圃場5地区14地点ならびに公共草地1か所2地点の土壌調査を行った。

受託研究では、新資材試験「ねぎに対する肥効調節型窒素肥料「ハイパーCDU(細粒)-2」の施用効果」を実施した。

##### (2) 生産環境グループ（病虫）

クリーン農業に関する課題として、経常(各部)研究の「ハウス栽培のためのほうれんそうの高度クリーン栽培技術の開発」および「スイートコーン害虫に対する効率的防除体系の確立」を実施した。

公募型の課題では、内閣府SIP事業のうち、「持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開

発 11.新規土壌還元消毒技術の開発 (3)北海道地域における新規土壌還元消毒技術の開発」を実施した。

農作物病害虫診断試験では合計55件の診断依頼があった。

病害虫発生予察事業では農試定点ほにおける各作物(水稻、ばれいしょ、キャベツ)の主要病害虫(斑点米カメムシ、コナガ、いもち病等)の発生状況を調査し、結果を病害虫発生予察情報として提供した。

新農業資材では殺虫剤12剤、殺菌剤18剤の効果試験を実施し、殺虫剤2剤、殺菌剤5剤が指導参考事項となった。

##### (3) 地域技術グループ（作物）

水稻試験では、奨励基本試験において、収量性および食味に優れた「上育469号」、耐倒伏性および玄米品質に優れた「上育470号」、大粒で収量性に優れた「空育181号」、収量性に優れた「空育183号」、早生で収量性および玄米品質に優れた「空育186号」をやや有望とした。このうち、「空育181号」は飼料用として道優良品種に認定された。「寒地の水稻湛水直播栽培における除草剤の播種同時処理を可能にする効果的な水管理法」の試験結果については、道南地区水稻直播冬季研修会で生産者等関係者に報告した。また、公募型研究において「新たな簡易米飯評価法を用いた実需ニーズに対応した業務用多収品種の開発」の試験を新たに開始した。

畑作試験では、各奨励基本試験において、収量性に優れた大豆「十育259号」および「十育262号」、耐病性に優れた小豆「十育167号」をやや有望とした。

園芸試験では、「野菜の地域適応性検定」においていちご多収性春どり系統の適応性を検定し、このうち大果で規格内収量性が高い「空知35号」が道優良品種に認定された。また、経常研究において「さつまいも生産における収益向上を目指した育苗体系確立と加工適性の評価」、公募型研究において「地域ブランド強化のための高品質食用・加工用サツマイモ品種の開発」の試験を新たに開始した。

新資材の実用化試験では、12件の水稻除草剤と1件の野菜除草剤が指導参考事項となった。

##### (4) 地域技術グループ（地域支援）

地域農業が直面する技術的な課題の解決を目指し



て、地域で実施される試験に対する支援や技術的な情報の提供等を、研究部、技術普及室、各農業改良普及センター、渡島総合振興局、檜山振興局、関係団体と連携を密にしながら行った。また、道南地域農業技術

支援会議の取組として、地域における課題の把握に努めるとともに、要望があった課題について、下記のようなプロジェクトチームを組織して取り組んだ。

プロジェクトチーム（平成27年4月）

チーム長 地域技術G研究主幹 中住 晴彦

分 担 事 項	期 間	チ ャ ム 員 所 属 ・ 職 ・ 氏 名
メタン発酵消化液(液肥)の活用促進および現地実証 (平成26年度道南地域農業技術支援会議要望課題；メタン発酵消化液(液肥)の活用促進)	平成27年	地域技術G主査（地域支援）林 哲央
		技術普及課道南農試駐在（技術普及室） 上席普及指導員 高橋 恒久 主任普及指導員 小坂 善仁
ハウス立茎アスパラガスの経年劣化に伴う改植技術等の確立 (平成26年度道南地域農業技術支援会議要望課題；ハウス立茎アスパラガスの経年劣化に伴う改植技術等の確立)	平成27年	地域技術G主査（地域支援）林 哲央
		技術普及課道南農試駐在（技術普及室） 上席普及指導員 高橋 恒久 主任普及指導員 小坂 善仁 主査（地域支援）石岡 康彦

## 2. 試験研究・地域支援の内容

### —— (1) 生産環境グループ（栽培環境） ——

#### I 経常研究

##### 1 経常研究

##### (1) マルハナバチおよびホルモン処理が不要な単為結果性トマトの栽培技術開発

（平成26～28年、経常、地域技術グループ（作物）と共同）

（3）地域技術グループ（作物）の項を参照

##### (2) 環境保全型有機質資源施用基準の設定調査

##### 1) 土壌機能実態モニタリング調査（定点調査）

（平成11年～継続、経常、中央・上川・十勝・根釧・北見と分担）

目的：施設等の営農活動が作物生産および土壌環境に及ぼす影響を適正に評価した土壌管理対策指針を策定し、適切な土壌管理を指導・推進する。

##### (3) 農作物の病害虫診断試験

##### 1) 生理障害診断

（昭和50年～継続、経常）

目的：農業改良普及センター、技術普及室などを通して依頼される農作物の生理障害などを迅速に診断し、適切な指示を行うことによって被害を最小限にとどめる。

#### 2 経常（各部）研究

##### 1. クリーン農業総合推進事業

##### (1) 施設野菜の輪作体系における施肥対応技術の開発

（平成25～27年、経常（各部））

目的：施設野菜の輪作体系において、前作栽培後の土壌の残存養分推定法を確立し、前後作を通じた簡易な施肥対応技術を開発する。

##### (2) トンネル早熟・露地マルチスイートコーンの化学肥料高度削減技術の開発

（平成26～28年、経常（各部））

目的：スイートコーンのトンネル早熟・露地マルチ作型における化学肥料窒素5割削減栽培技術を確立する。

##### (3) ハウス栽培におけるほうれんそうの高度クリーン栽培技術の開発

（平成26～28年、経常（各部）、生産環境グループ（病虫）と共同）

目的：ほうれんそうにおける化学合成農薬および化学肥料窒素5割削減栽培技術を開発し、高度クリーン栽培および特別栽培を推進する。

##### (4) リン酸肥料のセル成型苗施肥によるブロッコリーの本圃減肥技術の確立

（平成27～29年、経常（各部））

目的：ブロッコリーのセル成型苗にリン酸を増肥することによる、本圃の施肥量削減技術を確立する。

#### II 道受託研究

##### 1 農業農村整備事業

##### (1) 農業農村整備事業に係る土壌調査

（昭和40年～、道受託、中央・上川・十勝・根釧・北見農試と分担）

目的：道営土地改良事業の新規採択地区の計画に当り土壌調査を実施し、土地改良に当たっての技術的指針を示す。

#### III 公募型研究

##### 1 農地管理実態調査

（平成25～32年、公募型、中央・上川・十勝・北見・天北・根釧農試と分担）

目的：農地の土壌炭素蓄積とその変化を明らかにする。

##### 2 カドミウム高吸収ソルガム新品種を用いた野菜畑土壌浄化技術の開発

##### ア. カドミウム高吸収ソルガム新品種のカドミウム吸収促進技術の開発

##### ①北海道でのソルガム多回刈によるカドミウム吸収促進策の検討

（平成25～27年、公募型、中央農試、農環研等と共同）

目的：施設土壌を対象に、ソルガムによる土壌のカドミウム濃度低減とその浄化期間の短縮化技術を開発する。また、野菜類の中で国際基準値の超過リスクの高いほうれんそうを用いて、土壌浄化目標値とその検証技術の策定を行う。

#### IV 受託研究

##### 1 ねぎに対する肥効調節型窒素肥料 「ハイパーCDU(細粒)-2」の施用効果

(平成25～27年、民間受託)

目的：ねぎに対する肥効調節型窒素肥料「ハイパーCDU(細粒)-2」の施用効果（生育・収量）を検討する。

#### —— (2) 生産環境グループ（病虫） ——

#### I 経常研究

##### 1 経常研究

###### (1) 農作物の病害虫診断試験

###### 1) 突発及び新発生病害虫の診断試験

(昭和50年～継続、経常)

目的：突発または新発生病害虫の診断を行い、農作物の被害を最小限にとどめる。

##### 2 経常（各部）研究

###### 1. クリーン農業総合推進事業

###### (1) ハウス栽培におけるほうれんそうの 高度クリーン栽培技術の開発

(平成26～28年、経常（各部）、生産環境グループ（栽培環境）と共同)

目的：

ほうれんそうにおける化学合成農薬および化学肥料窒素5割削減栽培技術を開発し、高度クリーン栽培および特別栽培を推進する。

###### (2) スイートコーン害虫に対する効率的防除体系の確立

(平成27～29年、経常（各部）上川農試と共同)

目的：スイートコーンの8、9月どり栽培において、雌穂を加害する害虫の被害実態を明らかにし、効率的な防除体系を確立する。

#### II 道受託研究

##### 1 病害虫発生予察調査

###### (1) 水稻病害虫発生予察定点調査

###### (2) 畑作病害虫発生予察定点調査

###### (3) 園芸作物病害虫発生予察定点調査

(昭和19年～継続、道受託)

目的：植物防疫法にもとづいて病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、病害虫防除所と連携して発

生予察情報を関係機関に提供して病害虫防除の適正化を図る。

#### III 公募型研究

##### 1 北海道地域における新規土壌還元消毒 技術の開発

(平成26～30年、公募型、中央農研等と共同研究)

目的：北海道地域に適した低コストで処理作業が容易で深層まで消毒可能な新規資材を用いた土壌還元消毒技術を開発し、トマト株腐病、褐色根腐病、サツマイモネコブセンチュウに対する防除効果を検証する。また、北海道における新規土壌還元消毒の導入マニュアルを作成する。

#### IV 受託研究

##### 1 新農業資材の実用化試験

(昭和45年～継続、民間受託)

目的：新殺菌剤および殺虫剤の病害虫に対する防除効果および薬害を検討する。

#### —— (3) 地域技術G（作物） ——

#### I 重点研究

##### 1. 冬季の道産葉菜類供給強化に向けた 無加温ハウス生産流通体系の確立

(平成26～28年、重点)

目的：冬季の北海道において道内各地の気象条件に対応した無加温ハウス生産流通体系を確立する。

#### II 経常研究

##### 1 経常研究

###### 1. 水稻新品種育成試験

(1) 障害に強く高品質で安定生産可能な北海道米品種の開発促進 (平成26～31年、経常)

3. 品種育成期間短縮のための大型水田温室を利用した世代促進

目的：水稻品種開発において、用途に応じた品種を迅速に提供するため、品種育成期間を短縮させる。

###### 4. 地域適応性試験（奨励品種決定基本調査）

目的：水稻品種開発において、用途に応じた品種を迅速に提供するため、育成系統の広域適応性を評価する。

## 2. いちご地域適応性検定試験

(平成20～26年、経常)

目的：道南農試育成系統（いちご多収性春どり系統）の道南地域における地域適応性を検討する。

## 3. 小豆地域適応性検定試験

(平成13年～継続、経常)

目的：試験機関で育成した有望系統について、その生産力並びに主要特性を検定する。

## 4. 野菜試験

### (1) マルハナバチおよびホルモン処理が不要な単為結果性トマトの栽培技術開発

(平成26～28年、経常)

(生産環境グループ(栽培環境)と共同)

目的：トマト生産において法律対応と省力化を可能にする単為結果性トマトの導入を推進し、北海道のトマト生産を発展させるために、単為結果性トマトの栽培特性に対応した安定多収栽培技術を開発する。

## 2 経常（各部）研究

### 1. 水稻新品種育成試験

#### (1) 奨決(水稻)（水稻奨励品種決定現地調査）

(昭和29年～継続、経常（各部）)

目的：有望品種・系統の道南現地における適応性を明らかにし、奨励品種決定の資とする。

#### (2) 多様な育種目標に対応した品種開発のための検定強化

##### 1. 水稻新品種開発のための検定試験（地域適応性検定試験）

目的：中央農試及び上川農試の開発途中の有望系統を道南農試で試験栽培し、道南地域に適する系統を早期に選抜するための材料評価を行う。

## 2. 新優良品種普及促進事業

### (1) 水稻新品種普及促進事業

(昭和41年～継続、経常（各部）)

目的：新品種の普及を促進するため、優良品種候補の有望系統について、種子の増殖を行う。

## 3. 奨励品種決定調査

### (1) 大豆奨励品種決定基本調査

(平成13年～継続、経常(各部))

目的：試験機関で育成した有望系統について、その生産力並びに主要特性を検定し、奨励品種決定の資とする。

### (2) 大豆奨励品種決定現地調査

(昭和29年～継続、経常（各部）)

目的：試験機関で育成した有望系統あるいは既存品種について、現地における適応性を検定し、奨励品種決定の資とする。

### (3) 小豆奨励品種決定調査

(昭和46年～継続、経常（各部）)

目的：試験機関で育成した有望系統あるいは既存品種について、現地における適応性を検定し、奨励品種決定の資とする。

## III 公募型研究

### 1 寒地の水稻湛水直播栽培における除草剤の播種同時処理を可能にする

#### 効果的な水管理法

(平成26～27年、公募型(新稲作研究会))

目的：北海道の水稻湛水直播栽培において省力的かつ効果的に雑草を防除するため、除草剤の播種同時処理における落水期間の水管理法を確立する。

### 2 道南地域における大納言小豆の高品質安定生産に向けた栽培法改善及び実需評価

(平成26～28年、公募(その他))

目的：道南地域の大納言小豆生産において、生産性および品質の向上に対応する栽培法改善技術を確立する。

## IV 受託研究

### 1 新農業資材の実用化試験

#### (1) 水田除草剤実用化試験

(昭和34年～継続、民間受託)

目的：新除草剤による除草効果及び水稻の生育収量に及ぼす影響について検討し、今後の除草体系確立の資とする。

#### (2) 園芸作物の除草剤及び生育調節剤実用化試験

(昭和39年～継続、民間受託)

目的：園芸作物に対する新しい除草剤、生育調節剤及びその他資材の実用性を検討する。

## (4) 地域技術G (地域支援)

### I 経常研究

#### 1 経常(各部)研究

##### 1. 革新的技術導入による地域支援

(1) 道南地域の様々な畑条件におけるさつまいも栽培の現地実証

(平成27~28年、経常(各部))

目的：道南地域の各畑地条件でさつまいもが輪作作物の一つとして栽培可能であることと、収穫後の茎葉すき込みが後作物に有効であることを実証・展示し、生食用さつまいも栽培を速やかに地域へ定着させる。

### II 普及センターの支援要望課題に対する対応

#### 1 水田土壌の窒素含量測定に係る支援

- ① 担当：地域技術G 林 哲央
- ② 対象：渡島農業改良普及センター稲作担当者
- ③ 内容

稲作担当者会議で取り組まれた「作期中アンモニア態窒素の測定」に関して、水田土壌のアンモニア態窒素の測定方法を講義するとともに、現地圃場の土壌を測定した。

#### 2 抑制トマトの生理障害(芯止まり症状)の対策

- ① 担当：地域技術G 林 哲央, 植野玲一郎  
生産環境G 上野 達
- ② 対象：渡島農業改良普及センター森町担当者
- ③ 内容

平成25年度から発生している抑制トマトの芯止まり症状について、土壌化学性、作物体無機養分濃度(特にホウ素濃度)等を調査し、今後の対策について検討した。

#### 3 有機栽培水稻育苗における有機液肥施用

- ① 担当：地域技術G 林 哲央
- ② 対象：檜山農業改良普及センター有機担当者
- ③ 内容

有機栽培稲作において苗質を安定化させるために、有機液肥を2葉期に施用して窒素の無機化を促進させるモデル育苗ハウスを設置した。土壌アンモニア態窒素の推移と稲体窒素濃度の測定を支援した。

#### 4 花ユリ「ピカリ」の鱗片繁殖子球の利用

- ① 担当：地域技術G 中住晴彦, 林 哲央
- ② 対象：渡島農業改良普及センター担当者
- ③ 内容：

北斗市花き生産組合から平成25年度に旧道南農業技術支援会議に要望された課題に基づき、花・野菜技術センターと北海道原子力環境センターの支援を受けながら、花ユリ「ピカリ」の鱗片繁殖子球を利用した切り花栽培技術について支援した。

### III 地域農業技術センター連絡会に対する支援

- ① 目的：道南地域における農業生産の振興を図るため、檜山管内の町立農業技術センターの実務者を中心にした農業関連技術の情報交換を支援する。
- ② 日時：平成27年4月22日(総会)  
平成28年1月13日(役員会)

## 3. 地域農業技術支援会議の活動

### I 設置趣旨

農政の大きな転換と農業・農村に対するニーズの多様化が進み、農業政策も地域の自主性や創意工夫を重視する方向へと変化し、地域課題も一層高度化・多様化している。このような中で、渡島総合振興局及び檜山振興局管内の農業及び農業関連産業が直面する課題に試験研究と普及組織、振興局行政が迅速かつ的確に対応するため、地域農業を支援する推進体制として、「渡島地域農業技術支援会議」、並びに「檜山地域農業技術支援会議」を設置している。

### II 渡島地域農業技術支援会議

#### 1 代表者会議

- ① 日時：平成27年4月28日, 平成28年1月29日
- ② 場所：渡島農業改良普及センター
- ③ 参集：総合振興局、農業改良普及センター
- ④ 内容：規約改正, プロジェクト課題の進捗状況と取りまとめ報告, 運営方法、年間スケジュール、事務局およびプロジェクト会議等の開催状況, 次年度要望課題への対応指針, 要望課題の把握方法等。

#### 2 地域関係者会議

- ① 日時：平成28年2月23日
- ② 場所：七飯町大中山コモン
- ③ 参集：総合振興局、農業改良普及センター、管内市町、JA、ホクレン等

④ 内容：プロジェクト課題の実施および取りまとめ報告，次年度要望課題への対応方針。

### 3 事務局会議およびプロジェクト課題活動等

事務局会議5回，要望課題調査および打ち合わせ5回，プロジェクト調査28回，課題要望機関との意見交換および報告会3回。

## Ⅲ 檜山地域農業技術支援会議

### 1 三者会議

- ① 日時：平成27年5月14日，平成28年1月27日
- ② 場所：檜山農業改良普及センター
- ③ 参集：振興局、農業改良普及センター
- ④ 内容：規約改正，プロジェクト課題の進捗状況と取りまとめ報告，運営方法、年間スケジュール、事務局およびプロジェクト会議等の開催状況，次年度要望課題への対応指針，要望課題の把握方法等。

### 2 地域関係者会議

- ① 日時：平成28年2月22日
- ② 場所：せたな町ふれあいプラザ
- ③ 参集：振興局、農業改良普及センター、管内町、JA，指導農業士，ホクレン，中央会，NOSAI等。
- ④ 内容：プロジェクト課題の実施報告および次年度の対応方針。

### 3 事務局会議およびプロジェクト課題活動等

事務局会議4回，プロジェクト会議4回，プロジェクト調査2回。

## 4. 平成27年度普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項

### I 普及奨励事項

#### (1) 水稻新品種候補「空育181号」

収量性が高く、穂ばらみ期耐冷性・いもち病抵抗性・耐倒伏性に優れ、早生で、直播栽培が可能であることから飼料用として普及させることにより、飼料用米の安定生産と所得向上が期待できる。また、北海道における主食用米の需給改善と水田面積の維持、飼料自給率向上に貢献できる。

### II 指導参考事項

#### (1) 施設野菜の輪作体系における施肥対応技術の開発

早春まき野菜収穫後の土壌残存窒素の推定法、結球野菜の外葉に由来する減肥可能量を明らかにするとともに、農試場内ほ場において、これらの値に基づく施肥対応の実証を行った。このことにより、早春まき野菜収穫後から後作を作付けするまでの間に、土壌分析を実施することなく後作の窒素施肥量を定めることができる。

#### (2) 新農業資材

道南農試で試験を実施した殺菌剤5剤、殺虫剤3剤、除草剤13剤、肥効調節型窒素肥料「ハイパーCDU（細粒）－2」を指導参考事項とした（薬剤名省略）。

## 5. 論文ならびに資料

### (1) 研究論文

論文名	学会誌名	号数	ページ		著者名 (所属)	発表年
北海道におけるイミダクロプリド抵抗性イネドロオイムシ個体群の発生と有効薬剤の検索	北日本病害虫研究会報	66	110	— 115	青木元彦	2015
単為結果性トマト品種の果実生産性および品質	北海道園芸研究談話会報	第49号	66	— 67	植野玲一郎、上野 達、細淵幸雄、高濱雅幹	2016
北海道の積雪地域における葉菜類の冬季生産の可能性	園芸学研究	第14巻別冊2	455		地子 立、高濱雅幹	2015
収穫時期の違いがサツマイモの食味・品質に及ぼす影響	北海道園芸研究談話会報	第49号	42	— 43	高濱雅幹、植野玲一郎、宗形信也	2016
道北の積雪地域における葉菜類の冬季無加温栽培技術の検討	北海道園芸研究談話会報	第49号	20	— 21	地子 立、高濱雅幹	2016
北海道のうるち米品質における年次間および地域間の差異とその発生要因	日本水稲品質・食味研究会会報	第7号	61	— 62	丹野 久、平山裕治・其田達也	2016
Species composition of Chinese chive Botrytis leaf blight pathogens and their seasonal and annual changes in Hokkaido, Japan	J. Gen. Plant. Pathol	81	218	— 225	Tomoo Misawa, Masanobu Takeuchi	2015
Taxonomic re-examination of several Japanese Stemphylium strains based on morphological and molecular phylogenetic analyses	J. Gen. Plant. Pathol	81	358	— 367	Daisuke Kurose・Tomoo Misawa・Takahito Suzui・Kazunori Ichikawa・Gan Kisaki・Long H. Hoang・Naruto Furuya・Kenichi Tsuchiya・Seiya Tsushima・Toyozo Sato	2015
Colletotrichum nymphaeae (病原追加) およびC. fioriniae によるブルーベリー炭疽病の北海道における初発生	北日本病害虫研究会報	66	101	— 105	三澤知央・堀田治邦・佐藤豊三	2015
カボチャ疫病の発病株率および収穫前降水量に基づく被害解析	北海道立総合研究機構 農業試験場集報	第99号	97	— 105	三澤知央	2015
カボチャ果実斑点細菌病の生態と防除	植物防疫	69(10)	656	— 662	新村昭憲、美濃健一	2015
ジャガイモ疫病による塊茎腐敗抵抗性検定法の改良	北海道立総合研究機構 農業試験場集報	第99号	115	— 120	白井佳代、美濃健一	2015

## (2) 口頭発表

発表名	発表学会等名	開催地	開催期間(月日)	発表者名(所属)
2015年の道央・道南地域におけるアワノメイガの発生活長と被害	日本応用動物昆虫学会・日本昆虫学会北海道支部	札幌市	1/19	青木元彦・土田 優・酒井紀彰・元島美彩
単為結果性トマト品種の果実生産性および品質	北海道園芸研究談話会・平成27年度研究発表会	札幌市	12/7	植野玲一郎、上野 達、細淵幸雄、高濱雅幹
北海道における冬季無加温栽培ベビーリーフの収量および内部品質特性	園芸学会	徳島市	9/26 - 9/27	高濱雅幹・植野玲一郎・宗形信也
道北の積雪地帯における葉菜類の冬期無加温栽培技術の検討	北海道園芸研究談話会平成27年度研究発表会	札幌市	12/7	地子 立, 高濱雅幹
北海道産及び他県産サツマイモの澱粉収量及び老化特性の比較	いも類研究会	諫早市	12/10	高濱雅幹、野田智昭、植野玲一郎、宗形信也
加工用(紫系)さつまいもの色素原料の可能性について	北海道さつまいも懇話会情報交換会	深川市	2/19	高濱雅幹
北海道のうるち米品質における年次間および地域間の差異とその発生要因	日本水稻品質・食味研究会	宇都宮市	11/14 - 11/15	丹野 久、平山裕治・其田達也
秋まき小麦「きたほなみ」の道南地域における窒素施肥法	日本土壌肥料学会2015京都大会	京都市	9/9 - 9/11	林 哲央・奥村 理
北海道のカボチャにおける7月播種による1月出荷の可能性と実用化に向けた課題	北海道園芸研究談話会	札幌市	12/7	八木亮治、野田智昭、後藤英次、林 哲央、福川英司
秋まきコムギ「ゆめちから」の収量・子実品質に対する窒素追肥効果	日本土壌肥料学会2015京都大会	京都市	9/9 - 9/11	杉川陽一、菅原章人、阿部珠代、且笠裕治
有機栽培畑における生産力向上のための緑肥活用法	日本土壌肥料学会2015京都大会	京都市	9/9 - 9/11	櫻井道彦、坂口雅己、且笠裕治
北海道におけるAlternaria alternataによるキュウリ黒斑病の発生について	日本植物病理学会北海道部会	札幌市	10/15 - 10/16	小松 勉・三澤知央・犬塚秀一
カボチャ疫病に対する数種薬剤の防除効果	北日本病害虫研究発表会	札幌市	2/25 - 2/26	三澤知央
北海道におけるイネ赤色菌核病の発生	北日本病害虫研究発表会	札幌市	2/25 - 2/26	東岱孝司・三澤知央・長浜 恵
ネグリゾクトニア葉鞘腐敗病に対する2種殺菌剤の防除効果	日本植物病理学会	岡山市	3/21 - 3/23	三澤知央・美濃健一

開催期間は2015. 4. 1～2016. 3. 31



(3) 専門雑誌、著書・資料

公表・成果名	雑誌名	巻号数 月号	ページ	著者名（所属）	発行 年
イネドロオイムシ 薬剤感受性低下の実態と防除対策	ニューカントリー	736号 7月号	50 - 51	青木元彦	2015
北海道産露地長ネギの夏どり夏出荷を狙う ～ 8、9月出荷に適した品種の選定	農家の友	793号 9月号	48 - 50	植野玲一郎	2015
露地ねぎ 夏出荷で労力分散と高単価を狙う	ニューカントリー	741号 12月号	52 - 53	植野玲一郎	2015
北海道でもできる！美味しいさつまいものつくりかた	農家の友	792号 8月号	48 - 51	高濱雅幹	2015
さつまいも産地化に向けた試験研究の現状と普及への取り組み	めぐりさろん21	63	3	高濱雅幹	2016
北海道における冬季無加温ベビーリーフ栽培	施設と園芸	172	34 - 34	高濱雅幹	2016
北海道のうるち米品質における年次間および地域間の差異とその発生要因	農業および園芸	91巻 1月号	16 - 32	丹野 久、平山裕治・其田達也	2016
知って得する肥料費削減法 〈露地・施設野菜〉 有機物活用と局所施肥でリン酸削減	ニューカントリー	739号 10月号	12 - 14	林 哲央	2015
北海道における土壌化学性の現状と土壌診断に基づく施肥対応	農家の友	792号 8月号	25 - 27	日笠裕治	2015
ダイズ紫斑病の防除対策	農家の友	789号 5月号	46 - 47	三澤知央	2015
ネギ葉枯病	新版 原色 野菜の病害虫診断		150 - 151	三澤知央	2015
北海道における園芸作物の新病害・その16 キャベツおよびハクサイ菌核病	北農	第82巻	181 - 185	三澤知央	2015
北海道における園芸作物の新病害・その17 イチゴ乾腐病	北農	第82巻	288 - 291	三澤知央	2015
北海道における園芸作物の新病害・その18 ブロッコリーおよびカブ菌核病	北農	第83巻	43 - 47	三澤知央	2016
野菜病害の原因究明と防除・63病害を北海道で初確認	広報ほくれん	388巻 4月号	6 - 7	三澤知央	2015
ダイズ紫斑病の防除対策	ニューカントリー	744号 3月号	50 - 51	三澤知央	2016

(4) 新聞記事

公表・成果名	新聞名	発行日	著者名（所属）
北海道におけるさつまいもの栽培特性	日本農業新聞	1/26	高濱雅幹
サツマイモ生産拡大を 厚沢部町でフォーラム	北海道新聞	2/26	高濱雅幹、宗形信也
冬でも無加温栽培OK	日本農業新聞	2/2	高濱雅幹
無加温ハウスで稼ぐ4	日本農業新聞	2/25	高濱雅幹
無加温ハウスで稼ぐ5	日本農業新聞	2/26	高濱雅幹
ダイズ紫斑病の防除対策	農業共済新聞	6/10	三澤知央

## 6. 印刷刊行物

- (1) 平成26年度 北海道立総合研究機構道南農業試験 場年報 (平成27年12月、44頁、HP公開)  
 (2) 第18回道南農業新技術発表会要旨 (平成28年2月、22頁、150部)

## 7. 技術指導・技術相談

### (1) 技術指導

講演名または会議名	講師氏名	月日	主催	開催場所	内容
道南農業試験場の研究紹介	田中文夫 丹野 久 中住晴彦	9/27	大野農業高校	道南農業 試験場	キャリア教育・職業教育推進事業「専門力アップセミナー」で、高校三年生を対象に道南農試の組織体制や研究内容を紹介した
北海道地区技術・家庭科教育研究大会への協力	田澤暁子	10/23	函館市中学校 技術・家庭科 教育研究会	函館市立 本通中学 校	技術科（生物育成学習）授業への協力を行った。
土壌診断値に基づく施肥設計についての勉強会	林 哲央	1/22	渡島改良普及 センター	渡島改良 普及セン ター本所	土壌診断値施肥対応についての協議、並びに土壌診断値に基づく施肥設計についての勉強会を行った。
近年問題となっている病害－特に種子伝染の重要性－	田中文夫	2/1	渡島中部指導 農業士・農業 士会及び渡島 総合振興局	北斗市農 業振興セ ンター	水稻の種子伝染性病害について説明を行った。
渡島新技術伝達研修	中住晴彦 林 哲央 青木元彦 田澤暁子	2/10	道南農試普及 室	厚沢部町 活性化セ ンター	平成27年度北海道の新技術に認められた成績を説明した。
は種同時除草体系試験	宗形信也	2/25	北海道米麦改 良協会	北斗市農 業振興セ ンター	道南地区水稻直播冬季研修会において播種同時処理除草剤の効果と施用のポイントについて試験結果を報告した。
大納言小豆栽培の改善方法	田澤暁子	3/9	檜山南部地域 畑作振興会	JA新函館 厚沢部支 店	檜山南部の畑作振興会総会において、農試と厚沢部町で実施している大納言小豆栽培試験の経過を中心に説明した

(病害虫・生理障害診断の依頼に現地対応した3件を除く)

### (2) 技術相談

項 目	件 数
電話・メール・公開デー相談コーナーによるもの	148件
	内訳 電話65件、メール41件、来場31件、その他5件（内出張先での口頭問合わせ3件）、 公開デー6件
病害虫診断・生理障害診断(分析等)に基づくもの	53件
	内訳 診断別：病害26件（49%）、虫害6件（11%）、生理障害5件（9%）、その他不明16件（30%） 作目別：野菜40件（75%）、果樹4件（8%）、畑作5件（9%）、花き3件（6%）、水稻0件（0%）、その他1件（2%）

## IV その他の活動

### 1. 職員研修

受講者	研修名	期間	場所
小滝宏樹	新任主幹級研修	H27.7.21 ~ 7.22	赤れんが庁舎 2階 2号会議室
田中文夫 田村正貴 丹野久 日笠裕治	ナイスライフセミナー	H27.8.25 ~ 8.26	渡島総合振興局
渋谷美香子	中堅職員のためのキャリアプラン研修	H27.10.5 ~ 10.7	道庁別館 1 1階第4研修室
石黒一幸	H27年度コミュニケーション能力向上研修	H27.10.15 ~ 10.16	檜山振興局
中村圭志	効率的な仕事の進め方	H27.10.19	渡島総合振興局
美濃健一	ライフプランセミナー	H27.11.17 ~ 11.18	渡島総合振興局
田澤暁子	第2回公設農試小豆試験研究情報交換会	H27.8.20 ~ 8.21	十勝農試
丹野久 中住晴彦 林哲央	知的財産規程類説明会	H27.9.4	函館市国際水産・海洋総合研究センター
宗形信也	北農研セミナー	H27.10.20	北海道農業研究センター(札幌市)
植野玲一郎	野菜茶業課題別研究会「トマトの生産を取り巻く現状と今後の研究方向」	H27.10.26 ~ 10.29	野菜茶業研究所(名古屋市)
丹野久 日笠裕治 中住晴彦 林哲央	第3回外部資金獲得のための学習会	H27.11.25	函館市国際水産・海洋総合研究センター
高濱雅幹	第29回いも類研究会	H27.12.9 ~ 12.11	長崎県農林技術開発センター
植野玲一郎	高収益施設アスパラガス新技術研究会第2回セミナー	H27.12.18	酪農学園大学
美濃健一 青木元彦	第69回北日本病害虫研究発表会	H28.2.25 ~ 2.26	

上段：総務、下段：研究

### 2. 研修の受け入れ

研修名	受入月日	人数	研修対象	内容
J A 営農指導員技術研修	7/28	10	JA職員	J A 営農指導員を対象に、病害虫予察や各種試験法について圃場を見ながら研修を行った。
大野中学体験学習	8/20~21	4	大野中学2年生	農業試験場の業務の紹介、調査・分析とデータとりまとめ等を行った。
京極町4Hクラブ技術研修	11/16	12	京極町4Hクラブ	人参の病害虫対策について研修を行った。

### 3. 参 観

参観者数

(単位：名)

参観項目	平成27年									平成28年			計
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1月	2	3	
一 般			19	42	200	79					8		348
水 稻			15	15	20								50
野 菜	5		7	12	7		24				4		59
栽培環境							10						10
病 虫													
計	5		41	69	227	79	34				12		467

(参観件数計20件、8月は農試公開デーの123名を含む)

### 4. 主催事業等

#### (1) 第21回農試公開デー

①日時：平成27年8月6日(木)13～16時、参加者123名

②内容：ア)見学会、ユリの木 土の観察、トウモロコシ、サツマイモ、水稻展示圃、水稻世代促進温室

イ)パネル・標本展示・クイズコーナー、パネル)新しい品種技術の紹介、実験)土の吸着能力を知ろう、野菜苗クイズ、豆すくい競争 ウ)相談コーナー、家庭菜園・作物栽培、肥料、病害虫診断 エ)試食コーナー、単為結果トマト、大納言ぜんざい

#### (2) 研究成果発表会(道南農試主催、\*檜山地域農業技術支援会議主催)

名 称	開催日	開催地日時	参加者数	内 容
檜山地域農業技術支援会議 平成27年度新技術セミナー*	2/22	せたな町民ふれあいプラザ 平成28年2月22日(月) 13:00～15:00	63	(1) 基調講演 ○近年問題となっている病害-特に種子伝染の重要性- 田中文夫 (2) 新技術発表 ○生態を知って防除に生かそう-ホウレンソウのコナダニ対策- 美濃健一 ○秋の防除で春の被害を防ごう-アスパラガスのカメムシ対策- (技術普及室) 高橋恒久 ○平成28年に特に注意を要する病害虫 美濃健一 ○残った窒素を有効活用! ハウス栽培窒素量の計算法 林哲央
第18回道南農業新技術発表会	2/23	七飯町 大中山コモン 平成28年2月23日(火) 13:00～16:00	71	発表課題 1 新しい技術等 1) 移植でも直播でも多収! 飼料用米「空育181号」 田澤暁子 2) 北海道に向けた新しいりんご品種 (技術普及室)小坂善仁 3) よくとれる! 大きいいちご「空知35号」 高濱雅幹 4) 残った窒素を有効活用! ハウス栽培窒素量の計算法 奥村 理 5) 生態を知って防除に生かそう -ホウレンソウのコナダニ対策- 美濃健一 6) 平成28年に特に注意を要する病害虫 美濃健一 2 農業改良普及センター 活動紹介 1) 経営基盤であるトマトの高品質安定生産 渡島農業改良普及センター 金ヶ崎一美 3 地域農業技術支援会議について 中住 晴彦
道南さつまいもフォーラム	3/15	厚沢部町町民交流センター 平成28年3月14日(火) 14:00～16:30	120	場所: 厚沢部町町民交流センター 基調講演 農研機構作物研究所 上席研究員 片山 健二 パネルディスカッション 農研機構作物研究所 上席研究員 片山 健二 協和化学工業研究開発部 農業アドバイザー 亀井 大 株式会社オホーツクシーライン 代表取締役 山田 繁 道南農試 地域技術グループ 研究主任 高濱 雅幹

(3) 研究会等の開催（道南農試主催）

名 称	開催日	開催地	参加者数	備考
道南地域の様々な畑条件におけるさつまいも栽培のための生育期巡回会	8/25	厚沢部町	18	J A厚沢部支店と連携して、地域の農業者から参加者を得た。
道南地域の様々な畑条件におけるさつまいも栽培のための生育期巡回会	10/8	厚沢部町	18	北海道さつまいも懇話会のメーリングリストに投稿し、厚沢部町外の農業者からも参加者を得た。
道南地域の様々な畑条件におけるさつまいも栽培のための貯蔵状況視察会	1/20	厚沢部町	10	

(4) 普及組織及び振興局との連絡会議等共催および参加

会議等名称	回数	開催日
檜山地域農業技術支援会議	11	5/14、6/12、7/6、9/3、10/7、12/11、12/16、12/21、1/27、2/15、3/15
渡島地域農業技術支援会議	12	4/28、6/18、8/27、10/22、11/11、11/30、12/16、12/22、1/14、1/29、2/23、3/14
檜山農業関係業務連携会議	1	6/12
渡島農業関係業務連携会議*	1	6/18
若手研究職員・普及職員・行政職員の意見情報交換会**	1	8/20

\*渡島農業改良普及センター主催、\*\*道南農試技術普及室主催

## 5. マスコミ対応

取材機関・者	取材内容	対応者	放映、掲載
FMいるか (パーソナリティ 山形敦子)	北海道でのさつまいも栽培について	高濱雅幹	FMいるか、「暮らしつづれおり」4/7 10:50-11:20に生放送
北海道新聞情報サービス花新聞 ほっかいどう編集部 谷 織恵	記事「北海道で栽培可能なさつまいもと落花生の品種」への写真提供	丹野 久 高濱雅幹	花新聞ほっかいどう 5/28号 vo1364(2015.6.10)18-21p
(株) peeps hakodate 編集統括 平野陽子 (函館葛屋発行のtake free雑誌)	研究者のご苦労話を特集したい	丹野 久	peeps hakodateに特集予定(6/10取材)
北海道新聞社 函館支社 本庄彩 芳記者 函館新聞社 山崎大和記者	水稻世代促進温室の収穫について	宗形信也	7/23北海道新聞朝刊道南版および函館新聞
FMいるか (パーソナリティ 山形敦子)	8/6 13:00-16:00に行われる道南農試公開デーの紹介と参加のお願い他	丹野 久	FMいるか、「暮らしつづれおり」8/5 10:50-11:20に生放送
北海道新聞社 函館支社 報道部 記者 袖山香織	農業の楽しさ知って、北斗市内で農産物直売所を運営する六輪村職員とその関係者30名による場内参観について	丹野 久	8/5北海道新聞夕刊
北海道新聞社函館支社 編集スタッフ 押野友美 函館新聞社編集局報道部 山崎大和記者 日本農業新聞 (電話のみ)	第21回道南農業試験場公開デー	丹野 久	8/7函館新聞朝刊道南版 8/11北海道新聞夕刊 8/12日本農業新聞北海道版
函館新聞社 編集局報道部記者 副部長 山崎 大和	試験課題「トンネル早熟・露地マルチスイートコーンの化学肥料高度削減技術」について	上野 達	8/13函館新聞朝刊 1面
ホクレン役員室 広報宣伝課 佐々木典寛氏、松川課長代理	道総研におけるリン酸施肥削減試験の取り組み	林 哲央	広報ほくれん10月号
デザ院内 (朝日新聞社フリーペーパー、キタマルシェプレミアムプレス編集) 関ひとみ	原稿「低アミロース米『彩』の魅力」の確認	丹野 久	キタマルシェプレミアムプレス 10/25号
函館新聞社 山崎大和記者	水稻世代促進温室の収穫について	宗形信也	12/1函館新聞
北海道新聞社函館支社 編集スタッフ 袖山香織 函館新聞社編集局報道部 山崎大和記者	第18回道南農業新技術発表会	丹野 久	2/24函館新聞朝刊 2/24北海道新聞朝刊
函館新聞社 山崎大和記者	いちご新品種「空知35号」	高濱雅幹	2/28函館新聞
日本農業新聞	寒冷地生産可能性探る 道南農試サツマイモでフォーラム	地域技術グループ	3/19日本農業新聞

## 6. 委員会活動

### (1) 情報システム委員会

① 構成：委員長；奥村 理（生産環境グループ主査（栽培環境））、委員；田澤暁子（地域技術グループ）、美濃健一（生産環境グループ）、竹内達哉（生産環境グループ）、中村圭志（総務課）、石岡康彦（技術普及室）

② 活動：イントラネットの管理およびホームページの更新（計14回）を行った。主な更新事項は以下のとおり。

- ア 道南農試主催行事等の案内
- イ 道南農試主催行事等の開催結果
- ウ 試験成績
- エ 作況報告
- オ 入札情報

### (2) 施設管理委員会

① 構成：委員長；中住晴彦（地域技術グループ研究主幹）、委員；美濃健一（生産環境グループ主査）、小滝宏樹（総務課長）、渋谷美香子（総務課主査（総務））、宗形信也（地域技術グループ主査）、奥村理（生産環境グループ主査（栽培環境））、林哲央（地域技術グループ主査（地域支援））、佐々木盛久（生産環境グループ）

② 活動：第1回は平成27年9月18日に開催し、施設整備・備品管理、小規模施設更新等について検討した。第2回は、平成27年10月16日に開催し、防疫体制、新温室の設置等について検討した。第3回は平成27年12月9日に開催し、新温室の設計について検討した。第4回は平成28年2月24日に開催し、洗車場と防疫体制度、新温室の設置等について検討した。

### (3) 業務委員会

① 構成：委員長；日笠裕治（生産環境グループ研究主幹）、委員；田村正貴（生産環境グループ）、植野玲一郎（地域技術グループ）、上野達（生産環境グループ）、青木元彦（生産環境グループ）

② 活動：4月から10月の毎週木曜日に業務委員会を開催し、作業計画の立案及び人員の配置等について協議した。

### (4) 安全衛生会議

① 構成：議長：田中文夫 議員：小滝宏樹（総務

課長）、渋谷美香子（主査（総務））、日笠裕治（研究主幹）、植野玲一郎（労組書記長）、竹内達哉（労組推薦）、上野 達（労組推薦）

① 活動：平成27年7月10日に安全衛生会議を開催し、職場安全衛生実施計画を決定した。実施計画に基づき、各取組みを実施した。

### (5) 図書委員会

① 構成：委員長；美濃健一（生産環境グループ主査（病虫））、委員；石黒一幸（総務課）、佐々木盛久（生産環境グループ）、田澤暁子（地域技術グループ）、上野 達（生産環境グループ）、小坂善仁（協力、技術普及室主任普及指導員）

② 活動：集報等の希望配布のとりまとめ、受け入れ図書・資料の整理を行った。

### (6) 研修・参観案内委員会

① 構成：委員長；日笠裕治（生産環境グループ研究主幹）、委員；石黒一幸（総務課）、竹内達哉（生産環境グループ）、高濱雅幹（地域技術グループ）、上野達（生産環境グループ主査（栽培環境））、林 哲央（地域技術グループ主査（地域支援））、石岡康彦（協力、技術普及室主任普及指導員）

② 活動：

平成27年6月29日に参観案内資料（圃場配置図、試験概要など）をもとに場員、振興局及び普及センター職員39名が参加して、参観案内リハーサルを実施した。

### (7) 場代表連絡員等

#### 1) 情報システム運営委員

① 委員：奥村 理（生産環境グループ主査（栽培環境））

② 活動：情報システムの運営管理のために、農業研究本部との連絡調整、場内IPアドレスの管理等の業務を行った。

#### 2) 植物遺伝資源連絡員

① 構成：委員：宗形信也（地域技術グループ主査（作物））

③ 遺伝資源の保存や調査に関する8つの事項が報告され、了承された。遺伝資源の緊急増殖については次年度についても引き続き実施することになり、当场水田温室も含め今後具体的な増殖計画を検討することとし

た。協議事項はなく、その他3題について意見交換を行った。

### 3) 北農連絡員

- ① 委員：奥村 理（生産環境グループ主査（栽培環境））
- ② 活動：北農の発行などについて、北農会との連絡調整を行った。

### 4) 図書連絡委員

- ① 委員：美濃健一（生産環境グループ主査（病虫））
- ② 活動：道総研農試報告、集報、資料について、配布希望のとりまとめを行った。

## 7. 場内研修

研修等名	主な内容	開催日	受講者数
学会講演にかかる場内予演会	日本土壌肥料学会2015京都大会に向けての場内検討	9/2	10
契約職員研修	契約職員による休暇処理の手続き、給与明細の見方、業務改善のためのチェックシート	5/22	21
平成27年度道南試験場競争的資金等不正防止研修	本部より通知された教材を使用し、自習で行った	8/3~7	17
救急講習会	消防へ講師依頼し、救急時の対応やAEDの使用方法などを受講	11/5	30

## 8. 表彰・資格

なし

## 9. 外部委員会等への参加

### (1) 学会役員・委員

名称	機関名	氏名
日本作物学会評議委員	日本作物学会	丹野 久
日本品質・食味研究会副会長	日本品質・食味研究会	丹野 久
檜山振興局農業農村整備事業環境情報協議会委員	檜山振興局農村振興課	丹野 久
渡島スマートアグリ事務局委員	渡島スマートアグリ事務局（渡島総合振興局）	丹野 久
日本土壌肥料学会代議員	日本土壌肥料学会	日笠裕治
Journal of Plant Studies 編集委員	Canadian center of science and education	三澤知央
生態と防除研究会(植物病害カンファレンス)世話人	生態と防除研究会(植物病害カンファレンス)	三澤知央
日本植物病理学会 植物病害診断研究会 幹事	日本植物病理学会	三澤知央



## (2) 技術審査

審査名称等	相手方	年.月	担当者	審査内容
論文審査	北日本病虫研究会	2015.5～8月	青木元彦	論文掲載候補論文1本を審査した
論文査読	北農	2015.7～9月	丹野久	論文掲載候補論文1本を査読した
論文審査	日本土壌肥料学会	2015.7～10月	日笠裕治	論文掲載候補論文1本を審査した
論文審査	Journal General Plant Pathogy	2015.4月	三澤知央	論文掲載候補論文1本を審査した
論文審査	African J of Agric Res	2015.9月	三澤知央	論文掲載候補論文1本を審査した
論文審査	J of Plant Study	2015.11月	三澤知央	論文掲載候補論文1本を審査した
論文審査	Journal General Plant Pathogy	2015.12～ 2016.2月	三澤知央	論文掲載候補論文1本を審査した

## (3) 振興局対応

名 称	相手方	開催日	出席者	開催地
渡島スマートアグリ研究会事務局会議（1回目）	渡島総合振興局	4/21	丹野 久	北斗市
渡島スマートアグリ研究会事務局会議（2回目）	渡島総合振興局	7/24	丹野 久	北斗市
檜山振興局道営農業農村整備事業環境情報協議会	檜山振興局環境情報協議会	7/29	丹野 久	上ノ国町
施設園芸省力化に向けた現地研修会	森町営農指導対策協議会（渡島総合振興局）	11/9	丹野 久	森町濁川
渡島スマートアグリ研究会道内先進地事例調査	渡島総合振興局	11/27	丹野 久	苫東ファーム（株）（苫小牧市）、伊達市就農支援研修センター（伊達市）
渡島スマートアグリ研究会事務局会議（3回目）	渡島総合振興局	1/14	丹野 久	北斗市
渡島スマートアグリ研究会プロジェクト（知内町）検討会	渡島総合振興局	1/28	丹野 久	知内町
渡島スマートアグリ研究会プロジェクト（北斗市）検討会	渡島総合振興局	2/9	丹野 久	北斗市
渡島スマート農業推進セミナー	渡島総合振興局	3/2	丹野 久	北斗市

## (4) 展示会等への出展

名 称	出展日	イベント名称	開催地	内 容
実験コーナー 土の吸着能力を知ろう	8/29	はこだて国際科学祭「科学屋台」	函館市	粒子の大きさの違う土壌を数種用意し、それに青インク水を浸透させ排出されるインク水の流出速度、色の濃さなどを実験していただき、土壌の違いによる吸着能力の違いを説明した。
おいしい北海道産さつまいもを食べてみよう！！ 焼き芋試食会	10/17	食べる・たいせつフェスティバル 2015 in 函館	函館市	北海道産さつまいもの認知度を高める目的で、来場者に道南農試産さつまいもの試食を行い、併せてアンケート調査による認知度調査を実施した。

## V 自己点検

### 1. 平成27年度計画に係る項目別実績の自己点検結果

平成27年度計画に係る各項目別実績件数の集約結果（平成28年3月31日現在）

連番	項目番号	項目	件数	備考
1	1	研究ニーズ調査によるニーズ把握件数(H27)	0	H27
4	1	各機関へ直接寄せられたニーズ把握件数(H27)	6	H27【別途調査】
7	1	次年度新規課題となったニーズ件数	0	H27【別途調査】
8	1	H26ニーズ把握によるH27新規課題となったニーズ件数	1	H26【別途調査】
10	2	「H28研究展開方向」に定める研究課題数(H27)	1	H27【研究課題データベース】
13	6	重点研究課題数(H27)	1	H27【研究課題データベース】
14	6	うちH27新規重点研究課題数	0	H27【研究課題データベース】
15	6	うち企業と連携した課題数	1	H27【研究課題データベース】
22	7	経常研究課題数(H27)	6	H27【研究課題データベース】
23	7	うちH27新規経常研究課題数	2	H27【研究課題データベース】
28	8	道受託研究課題数(H27)	0	H27【研究課題データベース】
29	8	うちH27新規道受託研究課題数	0	H27【研究課題データベース】
34	8	公募型研究への応募課題数(H27)	2	H27
39	8	公募型研究課題数(H27)	5	H27【研究課題データベース】
40	8	うちH27新規公募型研究課題数	1	H27【研究課題データベース】
45	8	公募型研究の管理法人実施件数(H27)	1	H27
51	8	一般共同研究課題数(H27)	0	H27【研究課題データベース】
52	8	うちH27新規一般共同研究課題数	0	H27【研究課題データベース】
60	8	受託研究課題数(H27)	0	H27【研究課題データベース】
61	8	うちH27新規受託研究課題数	0	H27【研究課題データベース】
69	9	研究課題検討会(専門部会)開催件数(H27)	0	H27
72	10	研究成果発表会・企業等向けセミナーの開催件数(H27)	3	H27
75	10	研究成果発表会・企業等向けセミナーへの延べ参加者数(H27)	191	H27
78	10	研究会等の開催件数(H27)	4	H27
81	10	研究会等への延べ参加者数(H27)	146	H27
84	11	展示会等への出展件数(H27)	2	H27
87	11	普及組織との連絡会議等開催件数(H27)	17	H27
90	11	企業等へ訪問し広報活動した件数(H27)	0	H27
93	12	出願中特許等件数(H27)	0	H27
94	12	うち特許等新規出願件数(H27)	0	H27
99	12	特許権等保有件数(H27)	0	H27
100	12	うち特許等新規登録件数(H27)	0	H27
101	12	うち特許権等放棄・権利消滅件数(H27)	0	H27
108	12	出願品数種数(H27)	0	H27
109	12	うち新規出願品数種数(H27)	0	H27
114	12	登録品数種数(H27)	3	H27

連番	項目番号	項目	件数	備考
115	12	うち新規登録品種数(H27)	0	H27
116	12	うち育成者権登録抹消・存続期間満了品種数(H27)	0	H27
123	12	ノウハウ指定された技術数(H27)	0	H27<新規>
124	13	特許等の実施許諾契約件数(H27)	0	H27<新規>
125	13	登録品種等の利用許諾件数(H27)	5	H27
129	14	課題対応型支援の実施件数(H27)	0	H27<新規>
130	14	技術審査件数(H27)	0	H27
133	14	技術開発派遣指導件数(H27)	0	H27
136	14	技術開発派遣指導派遣日数(H27)	0	H27
139	15	インキュベーション施設の貸与日数(H27)	0	H27
142	15	インキュベーション施設の利用企業数(H27)	0	H27
145	16	建築性能評価の実施件数(H27)	0	H27
148	16	試験体の製作件数(H27)	0	H27
151	16	構造計算適合性判定の実施件数(H27)	0	H27
154	17	研修会・講習会等の開催件数(H27)	1	H27
157	17	研修会・講習会等の延べ参加者数(H27)	60	H27
160	17	研修者の延べ受入人数(H27)	14	H27
161	17	うち企業等技術者や地域産業担い手の受入人数(H27)	0	H27
162	17	うち大学等の学生の受入人数(H27)	4	H27
169	18	連携協定等の締結件数(H27) ※通算	0	H27
170	18	うち事業を伴った連携協定等の件数(H27) ※通算	0	H27
171	18	連携協定等のうちH22以降に締結したものの件数(H27)※通算	0	H27
172	18	うち事業を伴った連携協定等の件数(H27) ※通算	0	H27
173	18	H27新規締結件数(H27)	0	H27
184	19	道関係部との連絡会議等の開催件数(H27)	2	H27
187	19	道からの研究ニーズ把握件数(H27) ※研究ニーズ調査	0	H27 ※項目No.1内数
188	19	うち対応したニーズ件数(H27) ※研究ニーズ調査	0	H26
193	19	道からの研究ニーズ把握件数(H27) ※各試験場等直接	2	H27【別途調査】 ※項目No.1内数
194	19	うち対応したニーズ件数(H27) ※各試験場等直接	0	H27【別途調査】
199	19	市町村との意見交換等の開催件数(H27)	0	H27
202	19	市町村からの研究ニーズ把握件数(H27) ※研究ニーズ調査	0	H27 ※項目No.1内数
203	19	うち対応したニーズ件数(H27) ※研究ニーズ調査	0	H27
208	19	市町村からの研究ニーズ把握件数(H27) ※各試験場等直接	2	H27【別途調査】 ※項目No.1内数
209	19	うち対応したニーズ件数(H27) ※各試験場等直接	0	H27【別途調査】
214	21	「H27研究展開方向」に定める研究資源(人)の投入人数(H27)	0	H27【研究課題データベース】
220	24	利用者意見把握調査の回答数(H27)	0	H27
221	24	うち業務の改善意見数(H27)	0	H27
222	24	うち改善意見に対する対応件数(H27)	0	H27

連番	項目 番号	項目	件数	備考
229	24	道民意見把握調査の回答数(H27)	126	H27
230	24	うち業務の改善意見数(H27)	3	H27
231	24	うち改善意見に対する対応件数(H27)	1	H27
238	24	関係団体等との意見交換等の開催件数(H27)	1	H27
241	26	階層別研修(研究部長級・研究主幹級・主査級・新規採用職員)の開催回数(H27)	0	H27
244	26	階層別研修(研究部長級・研究主幹級・主査級・新規採用職員)の受講者数(H27)	0	H27
247	26	研究開発能力向上研修の開催回数(H27)	0	H27
250	26	研究開発能力向上研修の受講者数(H27)	0	H27
253	26	国内研修Ⅱ(外部講師招へいによる職場内研修)の開催回数(H27)	0	H27
256	26	国内研修Ⅱ(外部講師招へいによる職場内研修)の受講者数(H27)	0	H27
259	26	H27職員研究奨励事業課題数	0	H27
260	26	うち業績型研究課題数	0	H27
261	26	うちシーズ探索型研究課題数	0	H27
262	26	うち技術支援型研究課題数	0	H27
271	26	海外研修の派遣件数(H27)	0	H27
274	26	海外研修の派遣人数(H27)	0	H27
277	26	国内研修Ⅰの派遣件数(H27)	0	H27
280	26	国内研修Ⅰの派遣人数(H27)	0	H27
283	26	国内研修Ⅱの派遣件数(H27)	2	H27
286	26	国内研修Ⅱの派遣人数(H27)	2	H27
289	29	寄附金の受入件数(H27)	0	H27
292	29	寄附金の受入金額(H27)	0	H27
295	38	視察者・見学者の受入件数(H27)	21	H27
298	38	視察者・見学者の延べ受入人数(H27)	346	H27
301	38	出前授業の実施件数(H27)	0	H27<新規>
302	38	道民向けイベントの開催件数(H27)	1	H27
303	38	うち公開デー等の開催件数(H27)	1	H27
306	38	道民向けイベントの延べ参加者数(H27)	123	H27
307	38	うち公開デー等の延べ参加者数(H27)	123	H27
310	38	国際協力事業等への協力件数(H27)	0	H27
313	40	災害等に関係した道受託研究等件数(H27)	0	H27
316	40	災害等に関係した技術指導件数(H27)	0	H27
319	40	災害等に関係した委員派遣件数(H27)	0	H27
322	42	グリーン購入の金額(H27)	200	H27

付表 1. 作物標準栽培法の概要

各試験に共通する水稲、畑作物についての当場の標準栽培法は、下記のとおりであるが、特殊なものについては各試験ごとに記載する。

作物名	栽培方法	苗代種類	選 種	播 種 期	苗 代 (1 m <sup>2</sup> )		
					基 肥	追 肥	播 種 量
水 稻	中苗栽培	冷 床	塩水選 (1.06)	4月中下旬	N = 5.6g	N=2g/箱	500g散播
	稚苗栽培				P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> = 11.1g K <sub>2</sub> O = 9.4g	N=1g/箱	1kg散播

作物名	栽培方法	施肥量(kg/a)			移植期	畦幅×株間 (cm)	m <sup>2</sup> 当 株数	一株 本数	病虫 防除
		基 肥	追肥	同時期					
水 稻	中苗栽培	N = 0.8	—	—	5月下旬	33×12	25株	3 ~ 4	3回
	稚苗栽培	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> = 1.0 K <sub>2</sub> O = 0.7							

備考 除草剤：初中期一発剤フロアブル50ml/a、後期は発生に応じて適時実施。  
堆 肥：100kg/a。

作物名	施 肥 量 (kg/a)					畦幅×株間 (cm)	播種期 (月日)	1 株 本数	中耕	除草	防除
	堆肥	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO						
大 豆	0	0.15	1.17	0.75	0.35	60×20	5.13	2本	1回	3回	6回
小 豆	0	0.30	1.17	0.75	0.35	60×20	6.4	2本	1回	3回	6回

付表 2. 土壤の理化学的特性

土壤条件：中粗粒褐色低地土(一部礫質褐色低地土)

(1) 水田

層 厚	国際法粒径組成 (%)					三相分布 (%)			
	粗砂	細砂	シルト	粘土	土性	固相	液相	気相	孔隙率
0~12cm	23.9	40.2	23.3	12.6	L	44.7	45.7	9.6	55.3
~21	19.1	40.3	18.7	21.9	CL	49.2	49.2	3.9	53.1
~35	6.1	37.7	40.2	16.1	CL	49.1	37.4	13.5	50.9

層 厚	pH		T-C (%)	T-N (%)	C/N	Y 1	塩基交換 容量 (me/100g)	リン酸吸 収係数
	H <sub>2</sub> O	KCL						
0~12cm	5.9	4.9	2.2	0.18	12.2	1.0	18.0	846
~21	5.1	4.0	1.2	0.12	9.7	10.2	17.6	742

(2) 畑土壤

層 厚	国際法粒径組成 (%)					容 積 重 (g/100cc)	孔隙率 (%)	有効態 リン酸 (mg/100g)	リン酸 吸収 係数
	粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
0~14cm	12.1	48.4	24.7	14.8	L	129	50.3	45.5	827
~30	0.5	37.6	45.2	16.7	CL	129	49.9	43.5	1374

層 厚	pH		T-C (%)	T-N (%)	C/N	Y 1	塩基交 換容量 (me/100g)	交換性塩基 (me/100g)		
	H <sub>2</sub> O	KCL						Ca	Mg	K
0~14cm	5.3	4.6	2.3	0.19	12.2	3.6	22.5	9.4	1.5	1.0
~30	5.0	5.0	1.0	0.11	9.5	0.7	27.7	18.2	3.5	0.5

---

---

平成27年度 道南農業試験場年報

平成29年 2月

地方独立行政法人

北海道立総合研究機構

道南農業試験場

北海道北斗市本町680番地

〒041-1201 TEL (0138) 77-8116

FAX (0138) 77-7347

E-mail donan-agri@hro.or.jp

ホームページ <http://www.agri.hro.or.jp//dounan/dounan.htm>

---

---